

海洋教育パイオニアスクールプログラム 成果報告書

【成果報告書 1：海洋教育のデザイン】

1 学校名

玄海みらい学園（中高等部）

2 活動テーマ名

げんかい学習 ～海を学び発信しよう～

3 実践の概要・ねらい

- 海洋教育を大きな柱として主体的・対話的で深い学びを展開することで、学んだことを活用する力を育てる。
- ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心で、持続可能な活動(ESD)を行おうとする生徒を育てる。

4 実践計画

① テーマ・概要・活動計画・教科等との関連

「学びの航海図」及び「海洋教育カレンダー」参照

② 実践の評価について

ワークシート、児童観察、振り返りカード等で評価していく。

5 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点

「棚田と海」をテーマに稲作体験学習をしながらの探究活動をしてきた5年生。棚田の米作りから派生する地域の祭りや文化についてまで学習のテーマを広げ深めた。この学習活動を通して地域のよさを再認識し、誇りをもつことにつなげることができた。これを国際交流で国内外の人、玄海町地域の方々、九州フォーラムでの成果報告会、そして、同じように米作りをしながらESDの視点での学習を進めている東京都多摩市立大松台小学校5年生とウェブ会議の中で発信した。

6年生は、修学旅行で訪れた長崎の平和や歴史の学びから始め、ふるさと玄海町に戻してよさを発信することで、自分の夢を思い描く活動につなげた。この学びによって、自分の生き方に目を向けることができた。これは、正に海洋教育を通して取り組んだキャリア教育であり、これからの自分の未来を見つめる学びにつながった。

地引網体験学習を通して学ぶ1、2、7年生。私たちの町玄海町は海に囲まれており、生徒たちは豊かな海の恵みを受けながら生活しているが、砂浜海岸がなく海に入る機会はほとんどない。そこで、玄海町から続いている唐津市玄界灘の海に入り、地域の漁師の皆さんの仕事に触れ且つ地域で獲れる海の幸・その恵みをもたらしてくれる自然に触れながら、①もっと海を身近に感じ、親しみをもたせること ②魚を獲り、調理し、食し、感謝するという一連の流れを体験することで、海と私たちとの関係に気付き、その環境を守ろうと行動する姿勢を育てることをねらいとして学習は進められた。7年生にとって、1、2年生と活動することは、自分たちの学びだけでなく、リーダーとしての役割をどう果たすか、それについても学んでいくこととなった。1・2年生だけでは難しい活動でも自分たちがちょっとだけ手を貸すことで可能となったことが自信へとつながり、人とかかわりながら進める学習の楽しさや面白さ、そして、成就感を味わうことができ、次の活動への意欲付けとなった。特に1年生とのたてわり活動は1年間通して設定し、体育大会や文化

発表会での表現活動、そして「海の生き物カルタ大会」へとつなげ、活動した。

防災減災をテーマにした学びに取り組んだ8年生。被災地を実際に訪れたり、生徒と同じ年齢の頃被災された方から直接体験談を聞いたりして、肌で感じて学べる環境をつくった。まず視察したのは、昨年起きた熊本地震の現場。1年経った今でも、まだまだ多くの爪痕が残っていたが、生徒たちが出会ったのは復興に向けて前向きに必死に生きている人々だった。しかし、ここまで辿り着くまでの想像を絶する恐怖心・絶望感を知ったときは言葉を失った。次に出会ったのは、5年前に東日本大震災で被災した人たち。福島県から福島原発の被害にあった大学生と、宮城県からT T Tで語り部として活動している大学生が来校し、当時の様子や気持ちを語ってくれた。また、実際は予測不可能である災害が起きたときの避難の仕方をテーマとしたワークショップを行い、未災者である私たちが日頃しておくべきことについて考えた。現地の生の声を聴き、現地の人に触れ、学んだことをもとに自分たち自身や自分たちの地域に目を向けた。隣の高等学校とも合同で津波に対する避難訓練も例年通り行ったが、本当にその避難ルート・場所でいいのか疑問をもった生徒たち。自分たちの足で歩きながら、別のルートも開発し、災害状況に応じた避難ができるよう、避難場所や避難経路、日常の備えの提示、さらに自分たちの町に必要な防災減災のための環境づくりについての提言を行い、学びを活かした町づくりを発信した。

昨年、防災・減災学習を行った9年生は、この玄海みらい学園の学びの総括として、沖縄修学旅行をきっかけとした活動に取り組んだ。海に囲まれている沖縄、平和の尊さを発信し続けている沖縄、同じ日本でありながら、歩んできた歴史に大きな特徴をもつ沖縄。そこで観て感じたことを、モザイクアートで表現し、多くの人に伝えた。また、先に述べた大学の来校が実現したのは、9年生生徒が自主的に福島での中学生サミットに参加し、減災は日常の備えから生まれることを8年生へ伝えたおかげである。こうやって学びのバトンが受け継がれる活動は、深い学びにつながっていった。

② 実践の成果

5年生。九州フォーラム（大牟田市）で玄海町の観光地や浜野浦の棚田の特徴を広めることができた。体験活動をベースにして、地域（ふるさと）のよさや魅力を児童なりの視点で評価し、そのよさや魅力を伝えるためにどんな資料が必要かを考えられるように学習活動を工夫した。調べ活動や取材などを通して、グループごとのまとめに必要な情報を収集した上で、それらを適切に取捨選択し、整理・分析を行えるようになった。

6年生。九産大で発表を行ったが、外部の人を対象にして発表に取り組んだことで、モチベーションを高めることができた。また、玄海町の海を中心に玄海町について調べることで、地域や地域の行事（巫女舞など）をより知ることができ郷土愛をはぐくむことができた。それらの学びを受け、文化発表会で、国語「海の命」の音楽物語発表に取り組み、教科を横断した活動ができた。

7年生。バス研修では、九十九島の遊覧船に乗り、海への関心をもつことができた。海きららの生物を含む、海の生き物について調べ、MAPやカルタを作った。そのカルタを使って1、2年生と異学年交流をし、学んだことを共有した。地引網では、地元の海に親しみ、海の生き物を知り、海の命をいただくことで、海とのつながりを実感した。このようにしながら海の生き物について学んだことを体育大会、文化発表会に取り入れ、1年生と交流しながら、学んだことを発信することができた。

8年生。被災地や、被災者からの講話をきくことで、防災・減災学習を身近なものとして感じることで、防災・減災学習は他人事ではなく自分のこととして学習を深めることができた。多くの情報があふれている中で、正しい情報を選んで、自分たちで伝えていくことができたのも成果である。これにより、自分たちの言葉で伝えたいという気持ちが強くなり、発信力の意識が高まった。その思いが、新たな避難経路を自分たちで見出すことにつながった。

9年生。1年生を迎える会で、昨年度に学んだ防災についての知識をクイズや段ボールベッドの作成実演

の形で分かりやすく全校に伝達・発信することができた。今年度の活動として、沖縄修学旅行での水族館見学を通して、海や海の生き物への関心を深めることができた。そこで見た沖縄の海をモザイク画で再現し、海の実しさや豊かさを発信できた。また、轟の豪を実際に見学したり、現地のガイドの方の話を聴いたりする平和学習を通して平和・命の大切さを実感することもできた。この修学旅行を通して海や平和について学んだこと、考えたことは沖縄新聞にまとめた。他にも、昨年に引き続き、被災者からの講話を聴き、防災・減災について他人事ではなく自分のこととして学習することができた。

全体を通して振り返ると、実際に観たり聴いたり、体験したり、肌で感じたりしたことは何よりも心に響くものがあり、地域（ふるさと）のよさや魅力に気づいたり捉え直したりすることにつながった。そして、それを誰かに伝えたいと思えるようになった。探究活動を行う際、必要な情報を収集した上で適切に取捨選択・整理・分析を行えるようになり、相手意識をもってよりわかりやすくまとめ、発信する姿が見られるようになってきた。

③ 次年度への課題

5年生。単発で学習した内容があった。他教科・他領域との関連を図りながら、見直しをもった（一貫した）単元計画、学習計画を立てておく必要がある。また、海洋教育の評価規準、学びの視点の共有（教師間、教師・児童間）の必要性、指導案形式の共通化・人材（人財）バンクの必要性も感じた。

6年生。玄海町の海を考えた場合、どうしても資料の数が限られるし、学年により重複する場合が多く、もっと細かに系統づけて調べることを分けておいたほうが良い。発表のための資料集めのスキル・資料をまとめる力・話す力・読み込む力など、すべての活動において日頃の学習で力をつけていかないと、作業が進まないと思った。

7年生。時間の確保が難しく、1つ1つの内容を深めることが難しかった。次年度を見越した計画を立てることが大切。学年やステージに応じた目標がよくわからないままのスタートであったので、大変だった。

8年生。学習を振り返り、防災・減災への意識を高め、様々な場面で生かしていく必要がある。生徒1人1人の防災に対する備えの行動までは結びついていない。正しい情報を選び、その情報を伝えることができたが、自分の考えや思いをいれるところまで至らなかった。防災・減災学習は死を連想させるものなので、恐怖心を抱く生徒に対する手立てが必要である。しかし、それらのことを十分に学ばせるための授業時数の確保が難しく、総合の時間だけでは時間が足りずに、道徳や学活の時間も必要とした。

9年生。授業時数の確保が難しく、総合的な学習の時間に9年生は修学旅行の事前学習、新聞づくり、進路学習も行うので、その他で内容を深める取り組みをするのは難しかった。生徒一人一人の防災意識を高め、普段の生活に生かしたり、実際の行動に結び付けたりするのは難しいと感じた。

6 主な連携機関及び内容

(5年生) <利用した施設>○浜野浦の実習田(米作り) ○町立図書館(棚田の歴史)

<人材・連絡先>○「あすぴあ」・A西部営農センター・玄海町役場産業振興課・教育支援センター・棚田組合(以上、米作り) ○東京都多摩市立大松台小学校(Web交流)
○食生活改善協議会会長(おし寿司)
○値賀神社宮司・町立図書館(文化・祭り)

(6年生) ○メディアセンター ○パソコン室 ○玄海町立図書館 ○三島神社 (以上、各プロジェクト)

(7年生) ○海きらら(バス研修) ○西の浜・玄海町支援センター(地引網)

(8年生) ○福岡防災センター(バス研修) ○熊本市立二岡中学校(被災者の手紙)

○JTB復興ツーリズム 学びのプログラム 熊本城コース・熊本語り部や熊本城ガイド(熊本現地研修)

○福島中学生サミットより・東松浦市学生ボランティア（TTT）（東日本大震災語り部）
（9年生）＜沖縄＞ ○ひめゆり資料館・平和の礎・平和記念資料館・轟の豪・道の駅かでな（嘉手納基地）
○美ら海水族館（「海の学び」）（平和学習）

平成29年度 海洋教育まとめ (1)年生

<p>成果</p>	<p>海洋教育の導入の時期にあたる5月中旬、海中展望船ジューラに乗り、海の中の様子や魚の群れや海藻などを観察したことは、子どもたちが興味・関心をもつきっかけとなった。更に、地引網体験の前に、7年生手作りの「おさかなカルタ」で、7年生との交流しながら、海に生息する魚について、関心をもった。1・2・7年生との地引網の体験、浜辺での砂遊びや砂のアートの制作、お魚解体ショーへの参加など、年間を通して海や海の生き物にたくさん触れることができた。多くの体験的な活動を通して、海への興味や関心を高めることができた。また、海上保安庁主催の海の環境を考えるポスターに応募することで、海の環境について、1年生なりに理解ができ、環境保全について考えることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>海洋教育の入り口にあたる1年生としては、たくさんの体験活動を重ねて、海への関心を高めることに重点をおいてきた。その結果、体験したことを絵(図工)や歌(音楽)やダンス(体育)などで表現することができた。しかし、これらの学びを文章でうまくまとめることまでできていない。簡単な振り返りは、その都度しているが、文章に詳しくまとめたり、まとめた文章を発表する場を設けることができていない。来年度は、学習したことを伝える相手やまとめ方を明確にすることで、子どもたちが感じたことや学びを表現する手立てを増やすことが(絵だけでなく、文章を書いたりやスピーチをしたりする等)必要である。</p>
<p>活動に際して利用した施設・人材・連絡先など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンパル呼子(海中展望船ジューラ) 0120-425194 82-3001 ・佐賀玄海漁業協同組合満島連絡所(西の浜地引網) 坂本智彦さん 72-2701 ・唐津市青少年支援センター(西の浜地引網、トイレ借用・更衣室借用・足洗場借用)74-1737 ・西の浜バス有料駐車場(旧高取邸)75-0289 ・いろは島人口海岸(砂のアート) ・仮屋漁協(鯛の養殖・お魚解体ショー)佐々木さん 52-2911 ・玄海町あおば園(お魚解体ショー)52-2213 ・玄海町産業振興課(魚に関する企画などの問い合わせ)越路さん 52-2199 ・日本野鳥の会佐賀県支部(劇を通して玄海町界隈に生息する海辺の鳥、汽水域の水鳥などについて知る)
<p>その他資料など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魚や鳥の図鑑(メディアセンター) ・魚や鳥の図鑑(玄海町町民図書館)



平成29年度 海洋教育まとめ (2)年生

<p>成果</p>	<p>地引網の経験、ジューラに乗って海の生物の観察、砂浜に行き浜辺の生き物とのふれあいや砂のアート制作などの体験、外国語活動で海の生き物の英語への慣れ楽しみ、また、ゲストティーチャーによる海の生物や浜辺の話聞く活動など、年間を通して海のことを考える機会がとて多かった。日頃の生活の中で児童の口から「海洋教育」という単語もできるようになり、この多くの経験が今後の生活で海のことを思い出すきっかけになった。 活動の最後には、紙粘土や貝殻を使って自分たちで魚の模型を作り、それを「みらい水族館」として掲示することができた。</p>
<p>課題</p>	<p>今年度はとにかく海に関係のある活動をたくさん計画した。児童の印象には残ったかもしれないが、活動内容が漠然としていたため、まとめるのが難しかった。1年生と協力して活動することが多かったので、新2年生は活動内容が重なることが予想される。また、地引網は7年生のサポートがあったため成り立ったが、7年生への負担は大きいものだった。</p>
<p>活動に際して利用した施設・人材・連絡先など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西の浜海岸、支援センター(地引網、バーベキュー) ・マリンパル呼子(ジューラ) ・いろは島人口海岸(砂のアート) ・東京大学の先生(海の生き物についての講話) ・玄海みらい学園理科担当の教員、鶴田先生(危険な生き物、玄海町の海岸についての講話)
<p>その他資料など</p>	



2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部下】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海に親しみ、海の生き物にたっぷりふれながら見つけた海のこと・自分のことをたくさんの人に伝えよう(生命)。											
生活科			●	●		●	●					
学校行事	K.S.交流会	バス旅行				体育大会	文化発表会	国際理解講座		九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部上】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	玄海町からもたらされる豊かな海の幸の探究を通して、ふるさとのおよさを発信しよう(生命)。											
総合												
学校行事	K.S.交流会	バス旅行				体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【5・6・7年生】													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
舵の方向	多角的な方向から海の可能性を探り、海と人との共生について考え発信しよう(環境・生命・安全)。												
総合	課題設定 バス研修で行く「海きらら」の見学を契機とし、興味・関心のあるテーマごとにグループをつくり、海の生き物について調べていく。そして、さらに探究したり、学びを広げたりする学習計画を立てる。		課題追求 ○海の生き物調べ…テーマごとに作ったグループで、協働しながら、探究活動を進める。生き物MAPとしてまとめ、生息域を確認する。その後「生き物カルタ」にまとめる。 ○地引網体験学習…1・2年生と共に体験活動を進め、海の命をいただくことで、海とのつながりを実感する。 ○海鳥観察…海中に生息する生き物だけではなく、海鳥にも目を向けさせ、環境と絡めながら探究学習を進め、ふるさとの生物の多様性・豊かさとおよさを理解する。					行動・発信・振り返り ・生き物カルタをつくり、低学年との交流をしながら、学びを発信する。 ・体育大会の競技や文化活動発表会の中に、学びを発信するための表現を入れていく。					
他教科・領域	【社会(地理)】 ・世界の姿					【社会(地理)】 ・アジア州「資源が豊富な西アジア・中央アジア」	【国語】 ・クジラたちの声	【国語】 ・スズメは本当に減っているか 【社会(地理)】 ・北アメリカ州「地球温暖化の影響と対策」		【社会(地理)】 ・オセアニア州「強まるアジアとの結びつき」	【理科】 ・地震地層プレートテクトニクス		
学校行事	K.S.交流会	研修旅行		キャンプ		体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット		

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【高等部】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海の様々な顔と向き合い、総合的に学び判断しながら、海とともに生きていこうとする思いやすべを発信しよう(安全)。											
総合	●										●	
学校行事	K.S.交流会	研修旅行				体育大会	文化発表会		国際交流	九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育カレンダー

	7年生
4	Korowal schoolとの交流会 <small>(社地)世界の姿</small>
5	海きらら見学 海の生き物調べ
6	海の生き物カルタづくり 海の生き物発表会
7	地引網体験学習
8	Korowal school訪問
9	地引網漁表現競技 「忘れんぼうのドリー」 <small>(社地)アジア州「資源が豊富な西アジア・中央アジア」</small>
10	korowal school訪問報告 地引網漁表現劇 <small>(国語)クジラたちの声</small> <small>(理科)浮力</small>
11	<small>(国語)スズメは本当に減っているか</small> <small>(社地)北アメリカ州「地球温暖化の影響と対策」</small>
12	
1	海鳥観察 学習のまとめ <small>(社地)オセアニア州「強まるアジアとの結びつき」</small>
2	学習発表会 <small>(理科)地震 地層 プレートテクトニクス</small>
3	1年間の振り返り

平成29年度 海洋教育まとめ (7)年生

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス研修では、九十九島の遊覧船に乗り、海への関心を持つことができた。 ・海きららの生物を含む、海の生き物について調べ、MAP、カルタを作った。そのカルタを使って1,2年生とい学年交流をし、学んだことを共有した。 ・地引網では、地元の海に親しみ、海の生き物を知り、海の命をいただくことで、海とのつながりを実感した。 ・海の生き物について学んだことを体育大会、文化発表会に取り入れ、1年生と交流しながら、
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の確保が難しく、1つ1つの内容を深めることが難しかった。次年度を見越した計画を立てることが大切。 ・学年やステージに応じた目標がよくわからないままのスタートであったので、大変だった。
<p>活動に際して利用した施設・人材・連絡先など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス研修・・・海きらら ・地引網・・・西の浜、支援センター(玄海町)
<p>その他資料など</p>	



2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部下】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海に親しみ、海の生き物にたっぷりふれながら見つけた海のこと・自分のことをたくさんの人に伝えよう(生命)。											
生活科											●	
学校行事	K.S.交流会	バス旅行				体育大会	文化発表会	国際理解講座		九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部上】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	玄海町からもたらされる豊かな海の幸の探究を通して、ふるさとのよさを発信しよう(生命)。											
総合											●	
学校行事	K.S.交流会	バス旅行				体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【中等部】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	多角的な方向から海の可能性を探り、海と人の共生について考え発信しよう(環境・生命・安全)。											
総合	●									●	●	
学校行事	K.S.交流会	研修旅行		キャンプ		体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【8・9年生】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海の様々な顔と向き合い、総合的に学び判断しながら、海とともに生きていこうとする思いやすべを発信しよう(安全)。											
総合	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">課題設定</p> <p>昨年の8年生の防災・減災学習を受けつつ、自分たちが探究していく学習内容を考える。 昨年4月に同じ九州内で起きた熊本震災。現場を直視することで、自分のこととして考え、防災・減災に必要なことについて、課題を設定する。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">課題追求</p> <p>自分たちが設定した課題について探究していく。 ・観たことや聞いたことをまとめながら課題を設定する中で起こった福岡県朝倉市の大水害。東日本大震災から6年。あの震災の体験談も聞きながら、さらに深めていく。 同じように原子力発電所のある福島から講師を招き、同じ目線で故郷を見つめ、持続可能な故郷の環境について考えていく。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">行動・発信・振り返り</p> <p>海と自然災害との因果関係を視野に入れながら、探究したことをポスターにまとめていく。学園内は勿論、町内、更には東京大学での海洋サミットで発信していく。(ポスター形式でのまとめ)</p> </div> </div>											
他教科・領域	【社会(地理)】 ・日本の姿 ・自然環境の特色	【社会(地理)】 ・資源や産業の特色 ・地域間の結びつき 【技術】 ・海洋エネルギー				【国語】 ・鯉節				【理科】 ・魚介類の解剖	【家庭科】 ・魚料理実習 【保健体育】 ・自然災害に備えて	【英語科】 ・イルカと少年 【理科】 ・天気の変化 【英語科】 ・Cooking with the sun
学校行事	K.S.交流会	研修旅行				体育大会	文化発表会		国際交流	九州フォーラム	海洋サミット	

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育カレンダー

	8年生
4	Korowal schoolとの交流会 <small>(社地)日本の姿 (社地)自然環境の特色</small>
5	<small>(技術)海洋エネルギー</small> 防災センター見学・地震体験 熊本城災害復興現地視察 <small>(社地)資源や産業の特色 (社地)地域間の結びつきの特色</small>
6	熊本城災害復興現地視察まとめ
7	<small>(保体)着衣水泳</small> 海の危険について
8	Korowal school訪問
9	<small>(国語)鯉節</small> 職場体験学習
10	<small>(理科)魚介類の解剖</small> 東日本大震災体験談講話 korowal school訪問報告
11	防災学習まとめ
12	防災学習まとめ・発表準備
1	海鳥観察 <small>(家庭科)魚料理実習 (保体)自然災害に備えて</small> 防災学習発表 in 玄海町(町教研)
2	防災学習発表 in 東京大学 <small>(英語科)イルカと少年</small>
3	<small>(理科)天気の変化 (英語科)Cookoing with the sun</small> 防災学習発表 in 玄海みらい学園 1年間の振り返り

平成29年度 海洋教育まとめ (8)年生

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地や、被災者からの講話をきくことで、防災・減災学習を身近なものとして感じる事ができ、防災・減災学習は他人事ではなく自分のこととして学習を深めることができた。 ・多くの情報があふれている中で、正しい情報を選んで、自分たちで伝えていくことができた。 ・自分たちの言葉で伝えたいという気持ちが強くなり、発信力の意識が高まった。 ・新たな避難経路を自分達で見出した。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、防災・減災への意識を高め、様々な場面で生かしていく必要がある。 ・生徒1人1人の防災に対する備えの行動までは結びついていない。 ・正しい情報を選び、その情報を伝えることができたが、自分の考えや思いをいれるところまで至らなかった。 ・防災・減災学習は死を連想させるものなので、恐怖心を抱く生徒に対する手立てが必要である。 ・授業時数の確保が難しく、総合の時間だけでは時間が足りずに、道徳や学活の時間も必要と
<p>活動に際して利用した施設・人材・連絡先など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡防災センター(092-847-5991) ・熊本県在住 熊本市立二岡中学校 谷口千代さんからの手紙 ・JTB 復興ツーリズム 学びのプログラム 熊本城コース ・熊本語り部や熊本城ガイド 岩村さん、川並さんなど ・上石美咲さん(福島中学生サミットの繋がり) ・東松浦市学生ボランティア(TTT) 鈴木貴之さん、添田あみさん、小山綾さん(体験談、避難訓練のワークショップ)
<p>その他資料など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本在住の被災者の中学生の動画(熊本地震) ・学生村の新聞(阿蘇の大学生語り部) ・あの場所はないけれど(熊本地震) ・海の危険 ・釜石の奇跡



2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部下】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海に親しみ、海の生き物にたっぷりふれながら見つけた海のこと・自分のことをたくさんの人に伝えよう(生命)。											
生活科	●											
学校行事	K.S.交流会	バス旅行					体育大会	文化発表会	国際理解講座		九州フォーラム	海洋サミット

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【初等部上】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	玄海町からもたらされる豊かな海の幸の探究を通して、ふるさとのよさを発信しよう(生命)。											
総合												
学校行事	K.S.交流会	バス旅行					体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【中等部】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	多角的な方向から海の可能性を探り、海と人との共生について考え発信しよう(環境・生命・安全)。											
総合										●	●	
学校行事	K.S.交流会	研修旅行		キャンプ			体育大会	文化発表会	国際交流		九州フォーラム	海洋サミット

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育「未来へつなぐたからもの」ストーリーマップ【8・9年生】												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
舵の方向	海の様々な顔と向き合い、総合的に学び判断しながら、海とともに生きていこうとする思いやすべを発信しよう(安全)。											
他教科・領域	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で訪ねる沖縄について、「平和」や「海」をテーマに、探求したい課題を設定する。 ・昨年度までのテーマである「防災」や「生命」についての学習を振り返り、総括の仕方を考える。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">課題探究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマや課題に沿っての情報収集や事前学習、現地見学、講話、体験活動などを通して、課題を探究し、解決をめざす。 「平和」・・・沖縄地上戦に関わる現地見学、講話、平和集会 「海」・・・美ら海水族館見学 「防災」・・・熊本地震に関わる体験活動、講話 「生命」・・・講話 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">行動・発信・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマや課題について学んだことをまとめる。 「沖縄辞典」「沖縄新聞」 ・文化発表会など、学校行事の場を利用して学んだことを発信する。 ・1年間の取り組みを振り返り、今後の活動につなぐ。 </div> </div>											
			【社会】 ・日本の民主化と冷戦	【社会】 ・冷戦の終結とこれからの日本【美術】 ・海のポスター →一部の生徒	【社会】 ・日本の伝統・文化			【社会】 ・防災とまちづくり	【国語】 ・絶滅の意味		【理科】 ・自然環境と人間のかかわり	【社会】 ・環境問題について考えよう。／持続可能な社会の実現をめざして

学校行事	K.S.交流会	研修旅行				体育大会	文化発表会		国際交流	九州フォーラム	海洋サミット	
------	---------	------	--	--	--	------	-------	--	------	---------	--------	--

2017年度 玄海みらい学園 海洋教育カレンダー

	9年生
4	Korowal schoolとの交流会 1年生を迎える会で、防災についてクイズなどを通して全校に発信 「沖縄辞典」作成
5	「美ら海水族館」見学、轟の豪見学など沖縄での平和学習 「沖縄新聞」作成 (社会)日本の民主化と冷戦
6	(美術)海のポスター (社会)冷戦の終結とこれからの日本
7	(社会)日本の伝統・文化
8	平和集会で沖縄で平和や戦争の悲惨さについて学んだことの報告
9	(英語科)未来の世代へ
10	(社会)防災とまちづくり 東日本大震災体験談講話 文化発表会の取り組みで沖縄の海の美しさ・豊かさをモザイク画で制作
11	(国語)絶滅の意味
12	
1	(理科) 自然環境と人間のかかわり
2	(社会)環境問題について考えよう。／持続可能な社会の実現をめざして
3	1年間の振り返り

一年間実施をしてみて、この時期が妥当である。

平成29年度 海洋教育まとめ (9)年生

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を迎える会で、昨年度に学んだ防災についての知識をクイズや段ボールベッドの作成実演の形で分かりやすく全校に伝達・発信することができた。 ・沖縄修学旅行での水族館見学を通して、海や海の生き物への関心を深めることができた。轟の豪を実際に見学したり、現地のガイドの方の話を聴いたりする平和学習を通して平和・命の大切さを実感することができた。修学旅行を通して海や平和について学んだこと、考えたことを沖縄新聞にまとめることができた。 ・被災者からの講話を聴き、防災・減災について他人事ではなく自分のこととして学習することができた。 ・沖縄の海をモザイク画で再現し、海の実しさや豊かさを発信できた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の確保が難しく、総合の時間に9年生は修学旅行の事前学習、新聞づくり、進路学習も行うので、その他で内容を深める取り組みをするのは9年生では難しい。 ・生徒一人一人の防災意識を高め、普段の生活に生かしたり実際の行動に結び付けるのは難しい。
<p>活動に際して利用した施設・人材・連絡先など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美ら海水族館 ・轟の豪を案内して下さったガイドの方 ・道の駅かでな(嘉手納基地)、ひめゆり資料館、平和の礎、平和記念資料館 ・東松浦市学生ボランティア(TTT)鈴木貴之さん、添田あみさん、小山綾さん(体験談、避難訓練のワークショップ)
<p>その他資料など</p>	

